

事業概要シート

施策 0305 図書館の充実と整備

《》の金額 現年度当初・補正予算、前年度繰越額の合計
※ 補正予算要求時は今回の補正予算額を除く。
※ 次年度予算要求時は次年度繰越額を除く。

事業名	図書館管理運営事業	拡充	予算額	76,642 千円
			《 57,129 》千円	
事業期間	～	財源内訳	国庫支出金	0 千円
			県支出金	0 千円
			地方債	0 千円
			その他	1,586 千円
			一般財源	75,056 千円
根拠法令要綱等	図書館法、大村市立図書館条例、大村市立図書館条例施行規則			

【事業の目的・概要・対象】

ミライオン図書館の利用者に対して、従来の図書館サービスの充実だけではなく、市民の「知の拠点」、「交流拠点」となることができるような図書館運営を行います。

(1) 図書等の閲覧・貸出・サービスの提供

- ① 1階こども室、3階一般開架・閲覧スペースで約25万冊、その他書庫等の蔵書もあわせると、合計125万冊の蔵書資料等が閲覧可能
- ② 新しい図書館システム、ＩＣタグを活用した蔵書管理の実施
- ③ 自動貸出機の導入などにより効率的な貸出・返却事務の実施

(2) 課題解決支援サービスの提供

従来の図書館サービスの幅を広げ、より一層市民に必要とされる図書館をめざし、市民の生活や仕事に役立つ情報を積極的に図書館から発信し、提供します。

- ① ビジネス・産業情報サービス
- ② 産業支援サービス
- ③ 医療・健康情報サービス
- ④ 子育て情報サービス
- ⑤ 行政情報支援サービス

情報（図書資料）の提供だけではなく、各分野の専門機関・行政機関と連携し、講座や講演会を計画的に実施します。

(3) おはなしの部屋、多目的ホール、研修室等を活用した様々なイベントの開催

- ① 読み聞かせボランティアを活用したおはなし会の定期的な開催
- ② 多目的ホール（200名収容）を活用した自主企画の講演会等の定期的な開催
- ③ こどもから高齢者までを対象とした生涯教育の実践場所として研修室を活用

【背景】

令和元年10月5日にグランドオープンしたミライオン図書館は、高知県・高知市について全国で2番目の県立・市立一体型図書館となった。

JR大村駅の側という立地条件に加え、九州最大規模の図書収蔵能力（約202万冊）、約200台の駐車場、大村市歴史資料館やカフェなども併設され、本市の知の拠点としてのみならず、たくさんの人々の交流拠点として、年間60万人の来館者数を狙っている。

担当課	社会教育課・図書館	課長	鈴川 章子
担当者	白石 勝己	問合せ先	48-7700（外線：市立図書館）

事業概要シート

【活動指標】

指標名			単位	H30 (実績)	R1 (計画)	R2 (計画)	R3 (計画)	R4 (計画)
①	開館日数	計画値	日	—	145	290	290	290
②	ミライ on 図書館来館者数	計画値	人	—	300,000	600,000	600,000	600,000

【成果指標】

指標名			単位	H30 (実績)	R1 (計画)	R2 (計画)	R3 (計画)	R4 (計画)
①	貸出冊数	計画値	冊	335,208	435,000	770,000	772,000	775,000
②		計画値						

【予算・決算】（千円）

事業費は当初・繰越・補正予算の合計額

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	合計
事業費	20,717	9,140	57,129	76,642	80,000	80,000	323,628
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0
地方債	0	0	0	0	0	0	0
その他	185	5	5,227	1,586	2,000	2,000	11,003
一般財源	20,532	9,135	51,902	75,056	78,000	78,000	312,625
人件費	25,338	20,356	42,652	41,996	41,996	41,996	214,334
職員(人)	3.05人	2.45人	5.45人	5.50人	5.50人	5.50人	27.45人
時間外勤務(h)	654h	530h	1510h	1000h	1000h	1000h	5694h
嘱託員(人)	1.00人	0.80人	0.00人	0.00人	0.00人	0.00人	1.80人
フルコスト	46,055	29,496	99,781	118,638	121,996	121,996	537,962

妥当性 (市の関与)	市立図書館の図書サービス等であり、市が実施主体となることは妥当である。
有効性 (施策貢献度)	来館者に対し、良質なレファレンスサービスを提供しながら、知の拠点として、様々な講座及び講演会の開催し参加者の交流を促すことは、図書館の充実を図る取組として有効であり、施策の推進に貢献するものである。
効率性 (コスト)	ミライ on 図書館は県立、市立図書館が連携・共同で運営するため、それぞれの役割を明確にしながらも、それぞれが応分の財政的・人的負担を負わねばならない。 今後、開館後の運営状況を把握・分析し、パート職員が担う部分の業務委託化など、改善を検討する余地がある。

1次評価	担当者意見のとおり
2次評価	1次評価のとおり